

新人漁師の声と暮らし

佐井村で活躍中の新人漁師の方々



やぼら しょうた
家洞 昌太さん
佐井村在住、20代

岐阜県生まれ。高校卒業後、2017年4月から佐井村の漁師縁組事業（→p.23のコラム参照）を活用して漁業に着業。現在は同村牛滝地区の坂井漁業部（合同会社）の坂井幸人氏（→p.23）にて指導を受けながら、底建網を中心とした漁業に従事。

漁師を目指している人にひと言！

下北は食べ物は何でも美味しいし、牛滝地区の人たちは皆優しいので人付き合いに心配はいりません。仲間が増えるのは大歓迎なので、若い人にも是非来て欲しいです。自分が地域の人にしてもらったように、親切に接し仕事以外でも付き合います！



せら まさし
世良 昌士さん
佐井村在住、30代

北海道生まれ。道内の大学を卒業後、警察と酪農家を経験し、2017年4月から佐井村の漁師縁組事業を活用して漁業に着業。現在は佐井地区の合同会社である丸漁漁業部で底建網漁等を教わり、他にも様々な漁業にチャレンジしている。

正直な話、漁師の仕事ってきちんと食べていけるのでしょうか？

自然資源を漁獲する漁業は収入が不安定で、非常に特殊な職業です。佐井地区には、冬に中心となる漁がありません。獲る漁業に比べて養殖業の方が資金計画を立てやすく、また生き物を育てることも好きなので、合同会社に入りながら、養殖業など様々な漁業を組み合わせれば、周年回せると考えています。



まつもと だいすけ
松本 大祐さん
佐井村在住、30代

大阪府生まれ。携帯電話代理店会社で10年以上営業職や管理職を経験。次第に北か南で田舎暮らしをしてみたいという思いが強くなり、2017年3月から佐井村の漁師縁組事業を活用して漁業に着業。現在は磯谷地区の漁師会（各地区の漁業者全員で構成される漁民集団）の指導の下、春夏はヤリイカ小型定置網やウニ漁、冬は底建網やタコかごなど様々な漁業に取り組んでいる。

下北地域の漁師になったきっかけは何ですか？

きっかけは佐井村役場のHPに掲載されている漁師縁組事業の募集要項を見つけたことです。役場から数年間の補助がもらえる点、ゆくゆくは漁業権を取得し独り立ちできることや、漁業には定年がないことが魅力的であると感じました。面接の時も佐井村役場の人たちは温かく出迎えてくれたため、改めてここで暮らしたいと感じました。



もぎ つよし
茂木 健さん
佐井村在住、40代

東京都生まれ。前職は下水道工事の下請け会社。母親の出身地でもある佐井村は、幼い頃からよく慣れ親しんだ地域であり、以前から何度も移住を検討。ついに2018年6月から佐井村の漁師縁組事業を活用して漁業に着業。現在は佐井地区にて丸漁漁業部（合同会社）にて底建網等を教わり、他にも様々な漁業にチャレンジしている。

下北地域で漁業に着業した感想を教えてください。

佐井村の漁師縁組事業は、将来的な漁業権取得が見込めて、さらに5年間で様々な指導者の下で漁業が学べる点がいいですね。漁業のやり方は人によって全く異なるため、実際に作業を習いながら比較することができるのは大きなメリットだと思います。自分もSNSで漁業の写真や動画をアップしているので、よかったらご覧ください！

- Facebook : <https://www.facebook.com/profile.php?id=100035308490176>
- Instagram : <https://www.instagram.com/mogieymetal/>

佐井村で新人漁師を指導・サポートしている方々



さかい ゆきひと
坂井 幸人 さん
佐井村在住、50代

佐井村生まれ。佐井村漁協組合長として将来の佐井村漁業を語るその姿はまさに真剣そのもの。合同会社坂井漁業部の代表社長。現在、佐井村牛滝地区にて息子らと底建網漁業に取り組む傍ら、漁師縁組事業を通じて家洞昌太さんを受け入れ指導している。

漁師縁組事業の魅力は何ですか？

漁師縁組事業の最大の特徴は、ゆくゆくは漁業権を取得して独立できること。新規就業者がなるべくスムーズに漁業を始められるように色々工夫もしています。例えば組合員資格がなくても採介藻を特別に許可したり、当初は5年が経過した段階で与える予定だった組合員資格を、順調にいけば3年で与えることを検討したりしています。現在漁師縁組事業を活用している4人が佐井村漁協の組合員として定着し、漁業で生計を成り立たせていけたら、自然と後を追う流れが出てくるものと期待しています。

新規就業者の受け入れを考えている方々へメッセージをお願いします！

まずは、受け入れる側の体制をしっかりと整えること。また、後継者を確保するためには地元だけではなく、他地域から受け入れることも重要です。ぜひ彼らを地域全体で温かく迎え入れてあげてください。



ひがしで たかひろ
東出 隆広 さん
佐井村在住、40代

佐井村生まれ。1996年から佐井村役場に勤務しており、現在は総合戦略課課長補佐兼企画政策係長。全国的に注目が集まる「漁師縁組事業」の考案者でもある。漁業に限らず村づくりに関わる仕事を幅広く手掛けている。

漁師縁組事業はどういう意図・発想で始まったのですか？

佐井村では後継者不足が深刻な問題で、特に地元で人材を確保するのが難しい状況です。それならば外部から受け入れて確保しようということで、佐井村のプロジェクトの一環として「漁師縁組事業」を立ち上げました。“漁師縁組”という名前の通り、跡継ぎがない漁師の家に養子のようになり、いずれは家業である漁業を、漁船、漁具、漁業権を引き継いでいって欲しいという想いが本事業に込められています。

漁師縁組事業を始めるにあたって苦労した点はありますか？

2011年に本事業の構想を立てましたが、漁協や漁業者、漁業者の親類などの説得に時間がかかり、実際に受け入れを開始したのは2017年でした。やはり、親族以外が漁業権を引き継ぐことに対して抵抗を感じる人もいます。将来の漁業者数や水揚げ金額の減少など数字で見せることで何とか納得してもらいました。

コラム 佐井村の「りょうしえんぐみ漁師縁組事業」と漁協組合員資格くみあいいん

北半島の西側に位置する佐井村は、新規就業者対策事業のひとつとして、2017年から「漁師縁組事業」を始めました。これに採用された人は、最長5年間の給付金支援を受けつつ、ベテラン漁師の下に弟子入りし漁撈作業を教わりながら、将来の自立を目指します。

2019年9月現在、出身も違えば動機も異なる10～40代の男性4人の1ターン就業者が、漁師縁組事業を通じて、佐井村各地区の受け入れ先で技術の習得に励んでいます。この事業では、新規就業者の自立を促すため漁協組合員資格を得る前から、特例的に採介藻漁業を営めることとしています。

おおはた むつ市大畑町で活躍中の新人漁師の方々



さとう かいと
佐藤 海叶 さん
むつ市大畑町在住、10代

むつ市大畑町生まれ。高校卒業後、父親の佐藤敏美さん(→p.25)が経営する金亀水産に後継ぎとして就職し、今年が1年目。大学に行くことも考えたが、進路を両親と真剣に話し合った結果、将来漁業を継ぐのであれば大学の4年は無駄になると考え、高校卒業後すぐに漁業に進む道を選んだ。

🎣 漁師のお仕事はやっぱり大変ですか？

漁師は辛いこともたくさんあるので覚悟も必要です。ただそれが吹き飛ぶくらいの魅力もある。若い漁師同士で力を合わせて地域を盛り上げましょう！

🎣 地元育ちということですが、大畑町をどのように盛り上げていきたいですか？

親(→p.25 佐藤敏美さん)が地元を盛り上げるために様々な活動を頑張っているのを見してきました。これを引き継ぎ、若者の目線のできることを考え、漁業で地元を活性化できる取組みをしていきたいです。



いしと やつば
石戸谷 翼 さん
むつ市大畑町在住、20代

むつ市大畑町生まれ。高校卒業後、自衛隊を経験。自衛隊を辞めようか悩んでいたとき、親が勤めていた金亀水産を辞めることになったため、代わりに就職し乗船することとなった。今年で3年目。

🎣 最初は怒られたりするのでしょうか？

臨機応変に動かなければ怒られることもあります。それでも漁師は楽しいしやりがいがあります。自分の能力が足りないと怒られるのは当たり前なので、めげずに頑張って能力を上げて次は怒られないようにすればいいと思っています。自分が乗っている船はどの船よりもお勧めします！

🎣 漁業で食べていけるのでしょうか？家族は養えますか？

独身だと十分すぎる給料をもらっていると感じています。子供が産まれた前後は奥さんが働けず収入が減りましたが、何とかやりくりはできました。保育園に預けられるようになったので奥さんもパートで働くことになり、これからはもっと余裕が出ると思います。



おの であ
小野寺 紘大 さん
むつ市大畑町在住、30代

むつ市大畑町生まれ。高校卒業後、ホワイトファーム(養鶏、加工、販売)で食肉加工に従事。辞めようと思っていたとき、地元の祭りの打ち上げで金城丸船長の濱田一歩さん(→p.25)から声をかけられて金城水産に就職した。今年で3年目。

🎣 ズバリ、漁師の魅力を教えてください！

下北で獲れる魚はとにかくおいしいです！漁師は様々な魚が獲れるので魚好きには魅力だらけの仕事です。また、獲るだけではなく、売り方を工夫するなど自分で新しいことにチャレンジもできるなど、可能性は自分次第でいくらでも広がります。頑張ればそれに見合った収入と楽しさが待っています！

🎣 これからどんなことにチャレンジしていきたいですか？

小型定置漁業の他にも、自分で船外機船を持って釣りやさし網をやって収入を得てみたいです。ただ、大畑は世襲制で漁業権を引き継いでいるため、新たに組合員になることは難しいと思っています。

むつ市大畑町で新人漁師を指導・サポートしている方々



さとう としみ
佐藤 敏美 さん
むつ市大畑町在住、40代

むつ市大畑町生まれ。金亀水産代表取締役。八戸市の水産高校を卒業後、漁業一筋で25年、現在に至る。濱田一步さん(以下)の水産高校時代の先輩にあたる。

🎣 色んな世代の乗組員さんがいらっしゃるそうですね。どうやって人を集めたのですか？

自分の息子を含め、10代~60代それぞれ1名ずつの計6名の乗組員がいます。すべて地元の人で、水産高校の出身でもありません。かつては60~70代が多かったが、ここ3~5年で若手が増えました。数年前にいか釣りをやめて定置漁業の乗組員の募集を行ったところ、知り合い伝手で希望者が集まりました。

🎣 漁師になろうか悩んでいる人達に一言！

下北は自然豊かでなんでも海の幸も山の幸もうまい！若い人にぜひ漁師をやってもらいたいです。学歴は一切関係ない！大学を出ていなくても漁師はできる！



はまだ かずひろ
濱田 一步 さん
むつ市大畑町在住、40代

むつ市大畑町生まれ。金城水産取締役。八戸市の水産高校を卒業後、築地で3年間仲買人を務めた。その後大畑に戻り、漁業者として16~17年、現在に至る。

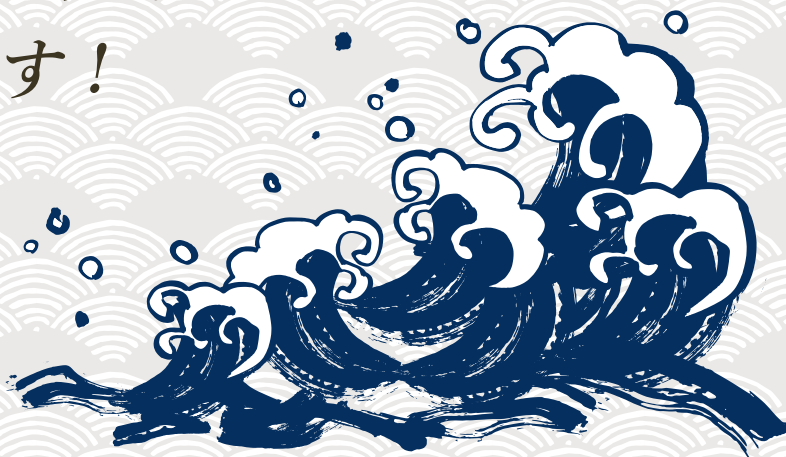
🎣 漁業の初心者でも、また若者やよそ者でも地域に馴染めるでしょうか？

定置網は毎日いろんな魚が入って魚好きは楽しくてしょうがないと思います。下北にも若い漁師はたくさんいるので、若い漁師同士で仲良くなって下北の漁業を盛り上げてほしい！

🎣 下北地域で漁業新規就業者を増やすいいアイデアがあれば教えてください！

下北地域でまとまって新人を募集するのがいいと思います。また、ただ人を集めるだけでなく、上の世代が抜けた後に漁具や漁船の後継がスムーズに進む仕組み作りが必要だと思います。

たくさんの仲間たちと、
彼らを支える頼もしい先輩たちが
あなたを待っています！



佐井村の暮らしの魅力

佐井村は何にでも挑戦できる楽しいフィールド。
みんなの工夫とチャレンジで、手作りの村暮らしが楽しくなっています。

「日本で最も小さくかわいい漁村」を創る 28のアクションプラン

「日本で最も美しい村」連合に加盟する佐井村。さらに「日本で最も小さくかわいい漁村」と銘打ち、地域住民が描く2030年のあるべく村の姿を目指し、28のプランを掲げました。そのなかには、すでに形にしているものもあります。

例えば、日本で最も美しい村世界女性サミットの開催やクラフトビールの製造を目指した試行的なホップ栽培です。

あなたも一緒に地域づくりの夢をかなえませんか？



▲ローカルからグローバルな視点でみる。2019年の日本で最も美しい村世界女性サミット

多くの移住者

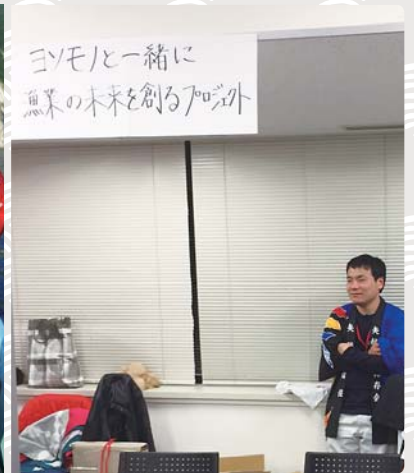
多くの移住者が、佐井村に新しい風を吹かせ始めています。地域おこし協力隊の方、漁業者と結婚して佐井村の魅力に気付いた人などなど・・・。



▲地域おこし協力隊として、ご夫婦で移住



▲漁業者と結婚し、地域の魅力を発見中



▲地域おこし協力隊から起業し、定住しました

漁村女性グループ：牛滝まだあ〜る

水産物加工品等を販売しているグループ「牛滝まだあ〜る」は「まだある」の意味。「『まだある、まだある』って声をかけて、わざと終わらないの。牛滝にはまだまだ色んな魅力があるし、牛滝の将来の発展を考えようという気持ちで名付けました」。

将来的には、レストランと鮮魚も含めた物品販売ができる施設を作り、若手女性の雇用の場として盛り上げていくことを構想しています。



▲代表船越さん(左)と大畑さん(右)。小さいスペースに笑顔があふれます



▲販売商品は、メンバー各自が作ったタラや海藻の乾燥製品、手芸品など

伝統的な行事が息づいています

地域のお祭りには、漁業新規就業者も加わっています。漁業者が演じる漁村歌舞伎も続いています。



- 1 世帯数50戸の地区で脈々と続いている漁村歌舞伎(福浦地区)
- 2 北前船より伝えられた京文化の香り漂う箭根森八幡宮のお祭りが、300年以上にわたり受け継がれています(佐井地区)
- 3 2019年8月に、牛滝神明宮の本祭典が十数年ぶりに行われました。漁業新規就業者も加わっています(牛滝地区)



ほっと一息できるカフェもあります

佐井村観光の中心的施設アルサスに入っているカフェ

出会いの場もあります

佐井村役場により定期的に婚活パーティーが開催されています。1泊2日の楽しいレクリエーション付きです。これが縁で子連れママも移住しています。